

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** ゴーチェ子午環室階下から水銀盤発見**

ゴーチェ子午環用の水銀盤は2007年レプソルド子午儀室を探検調査した際、発見していた。国立天文台ニュース2007年8月号に「NAOJ 歴史観測隊が行く：レプソルド子午儀室の謎に迫れ！前篇」、2007年11月号に「NAOJ 歴史観測隊が行く：レプソルド子午儀室の謎に迫れ！後編」という記事がある。筆者が国立天文台にアーカイブ室を立ち上げたのは2008年4月であった。2006年10月にSolar-B「ひので」打ち上げ成功後、天文情報センターに移り、ひょんなことから国立天文台歴史探検のようなことを始めていた。

なぜゴーチェ子午環用の水銀盤(写真1)がレプソルド子午儀室にあるのか不思議であった。レプソルド子午儀室にはレプソルド子午儀用の水銀盤(写真2)があった。



写真1 ゴーチェ子午環用水銀盤



写真2 レプソルド子午儀用水銀盤

ゴーチェ子午環用水銀盤はゴーチェ子午環観測室に敷かれたレール上を走るための車輪がついている。レプソルド子午儀用水銀盤は盤のみであった。今回発見された水銀盤は大きな写真用バットの中にあり、さらに大きなバットが被せられていた。



写真3



写真4

発見された状態は、写真 3 のように大きな写真用バットが被せられていたため、今まで何度も床下に入っていたが、その存在に気がつかなかった。被せてあった写真用バットをどけるとプラスチック製のタライの中に水銀盤があり、手前に水銀が入ったガラス容器が 3 個あった（写真 4）。水銀盤の表面は水銀との化合物のアマルガムができているから使用されていたと思われる（写真 5）。



写真 5

ゴーチェ子午環室には、望遠鏡の不動点の下にはハッチがある（写真 6）。写真 7 はハッチを開いた状態である。写真 7 で見るようにハッチ下のコンクリートの梁の上には水銀盤を設置するための構造は見られない。

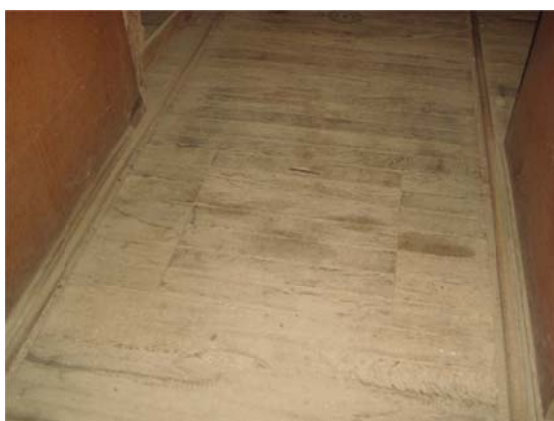


写真 6 ハッチ上部



写真 7 ハッチを開いたところ

したがって、この水銀盤がどのように設置され、使用されたかわからないが、水銀盤の性質上、精密に水平にするような設置台は必要としないことは当然である。

今回、ゴーチェ子午環棟地下から水銀盤が出てきたので、次号では国立天文台に残った

水銀盤をまとめて報告する。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp